

令和8年度 秋（9月～11月）のクマの遭遇リスクについて

（１）令和8年ドングリ豊凶調査結果

富山県森林研究所が実施した令和8年度の堅果類豊凶調査の結果、

ブナ：豊作 ミズナラ：並作 コナラ：並作

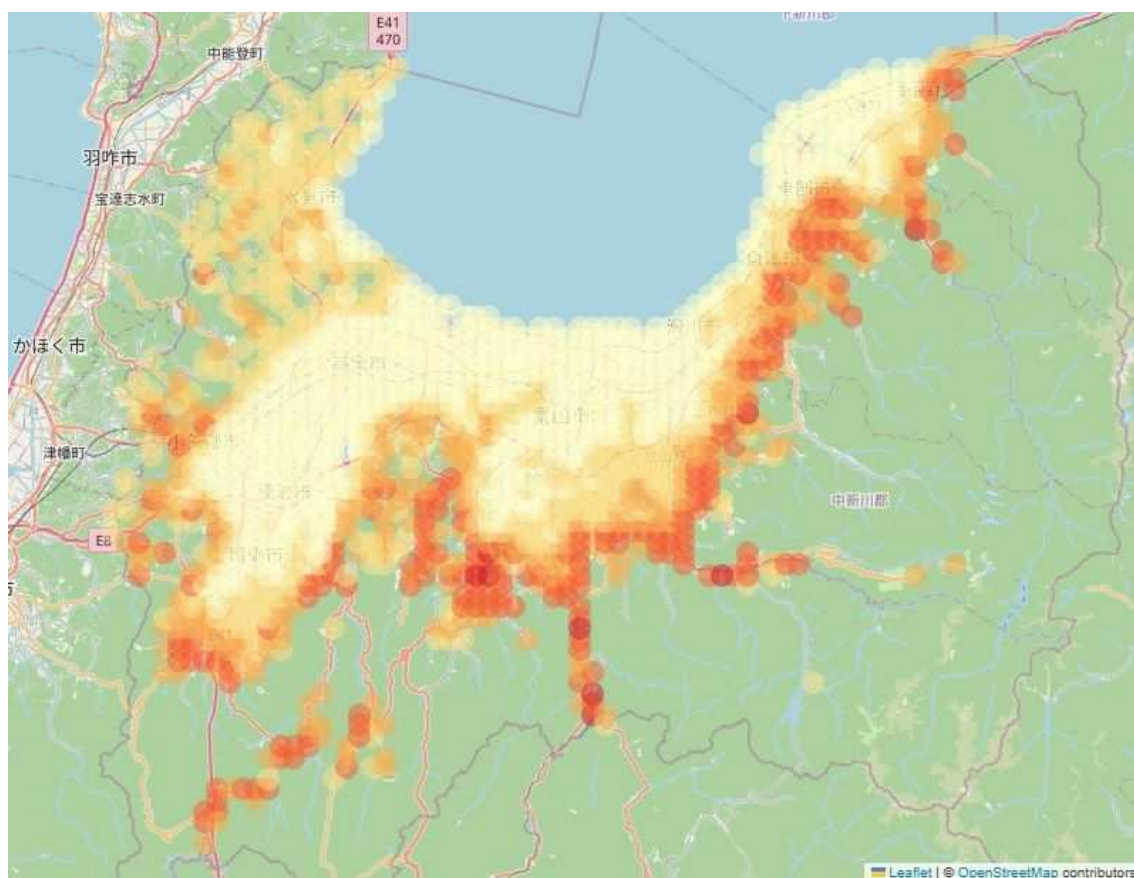
となりました。

クマの主要な餌となる堅果類が豊富に実ることから、クマが山林内で十分な餌を確保できる状況にあり、この秋は、クマの平野部での大量出没の可能性は低いと予測されます。

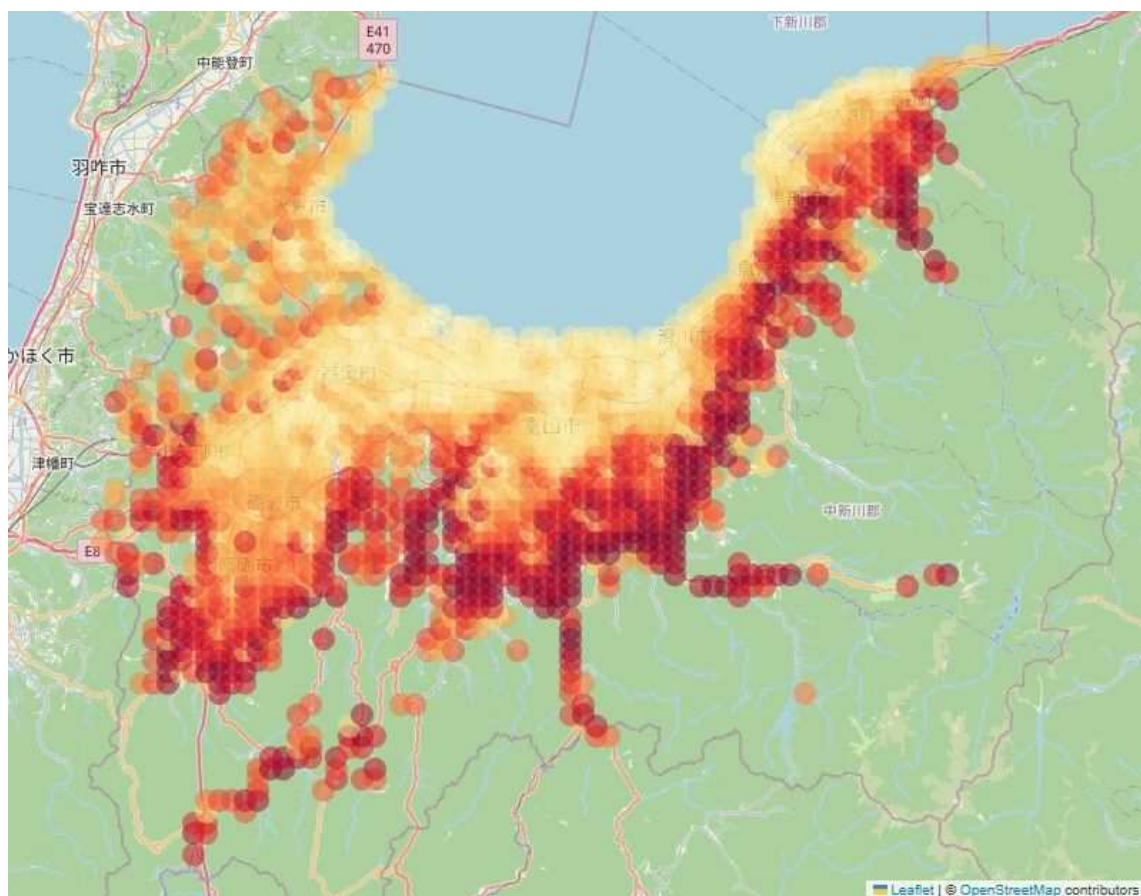
（２）AI クマ出没リスク予測マップ

AI による予測でも、令和8年の9月以降の県内のクマ出没リスクは昨年と比較して低い傾向が示されています。

令和8年度のマップ



令和7年度のマップ



リスク区分別の個所数の比較

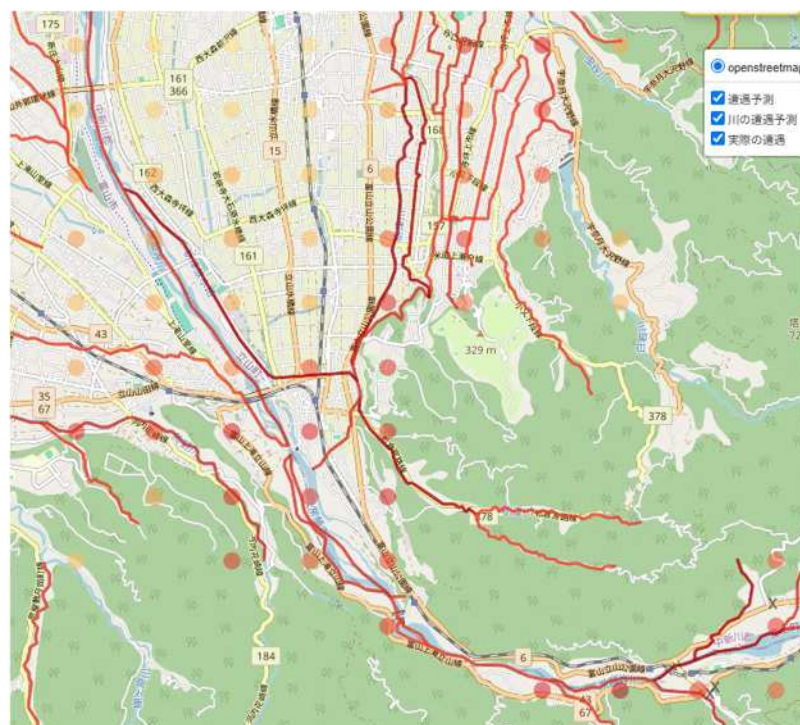
区分	令和7年度	令和8年度	増減
レベル5	68	23	-45
レベル4	261	220	-41
レベル3	362	329	-33
レベル2	292	353	61
レベル1	630	688	58

市町村別 レベル5・レベル4の個所数の比較

	令和7年度	令和8年度	増減
富山市	134	100	-34
高岡市	1	0	-1
魚津市	33	28	-5
氷見市	1	1	0
滑川市	16	12	-4
黒部市	28	22	-6
砺波市	22	16	-6
小矢部市	20	9	-11
南砺市	55	42	-13
射水市	0	0	0
上市町	17	13	-4
立山町	44	32	-12
入善町	2	1	-1
朝日町	7	3	-4
舟橋村	0	0	0

(3) 河川周辺でのリスク

河川沿いはクマの移動経路として利用される可能性があるため、山間部だけでなく平野部においても注意が必要です。予測マップでは、クマとの遭遇リスクが高い河川を赤色で示しています。具体的には、2025年1月～2026年8月に、河川から500m以内でクマとの遭遇が確認された河川が対象です。メッシュごとの予測が低いエリアであっても、遭遇リスクが高い河川沿いでは十分に注意してください。



（４）県民の皆様へ

秋のクマの出没が比較的少ない年であっても、人家周辺や人の生活圏で人身被害が発生しています。例えば、平成 29 年度には南砺市内、令和 4 年度には砺波市内及び南砺市内、令和 6 年度には富山市内で人身被害が発生しています。

秋の出没件数が少ない年でも、人身被害が発生する可能性がありますので、十分注意してください。

また、過去の豊凶調査結果では、ブナが豊作又は並作となった年の翌年には凶作へ転じた事例が確認されています。例えば、平成 18 年度、平成 24 年度、令和元年度は、前年の豊作又は並作から凶作になっています。

今年度は大量出没の可能性が低いと予測されていますが、来年はクマの秋の大量出没の可能性が高いことから、日頃からクマを呼び寄せない環境づくりや人身被害防止対策に取り組んでいただくようお願いします。